

藻岩の緑

(明治四十四年寮歌)

松山茂助君 作歌
柳沢秀雄君 作曲

一

藻岩の緑春閑けて
萬葉一朵の朝霞
憧憬彩と流れては
花皆奇しき香ならずや
若き血潮の踊る時
希望の前途光あり

二

青葉波よるアカシヤの
薫る木影に立ちよれば
長風夏の雲ゆらぎ
秋は牧場の夕まぐれ
鐘声止みて今暫し
牛の背に散る鳶紅葉

三

あはれ「美の国」石狩の
自然を己が揺籃に
おほし立つ可き人皆の
意気紅雲に似たるかな
一撃万里す大鵬の
翼整装ふ思あり

四

斗南の翼拡げては
天地広しと誰か云ふ
雲より高きアンデスの
裾野に友よ羊逐へ
天に漲るアマゾンの
岸辺の森に斧を振れ

五

弦月落ちて白楊の
樹林の暗の深き時
八荒裂けて万籟の
声すさまじく吹雪く時
世の濁流を叱雇して
巨人の叫び茲にあり

六

浮華輕佻の風あれて
驕奢の波は狂ふとも
北斗の光清ければ
世は永久に我世なり
聞けや人々北州に
正気溢るる意気之歌